

一般選抜（前期）国語 解答例

一

問一 1 蓄積 2 皮膚 3 遠隔 4 喪失 5 格闘（格闘） 6 輪郭（輪廓） 7 魅惑

問二 忘却され、置き去られた物質的な身体（一七字）

問三 脳の中の身体イメージは、外界と相互作用と調整を繰り返すことで流動的に拡張されるということ。（四五字）

問四 私たちの脳は、自分自身に対してだけではなく、他者やフィクションの中の身体イメージに対しても反応するということ。（五五字）

問五 身体そのものであると同時に虚構であるという二重の性質を備えたゾンビは、情報化時代の人間と類似点をもつ。さらに、ミラーニューロンによってゾンビと身体イメージの同一化を行い、虚構と現実を流動的に往復するという魅力的な体験ができるから。（一一五字）

問一 作品が作られた当時の姿を本来の姿とみなそうとすること。(二七字)

問二 作品を保存すれば活用することができず、活用しようとするれば作品を改変せざるを得ないというアポリア。(四八字)

問三 文化の本来の姿はコンテクストに応じて異なっており、複数存在するということ。(三七字)

問四 実際の旧制高校のOBが出演し、それぞれの学校の寮歌を、かつてと同様のだみ声、蛮カラストाइルで歌っているから。(五四字)

問五 音楽の本来の姿は、様々なコンテクストやメディアとの関わりの中で歴史的に形成され、変容しながらそのつど立ち現れるものであり、一義的に定まらない、という見方。(七七字)

問一　ハ　ちゃんと詠むことができるのか

ニ　そのまま立ち去ったのだった
ホ　かわいらしいからであらうか

問二　泣き声が海の波音を凌ぐというからには、さぞかし大声に違いないという皮肉。(三六字)

問三　期待していた返歌が一向にもらえないための、居たたまれなさとの負け惜しみの心情。(三八字)

問四　下心のある大人が予め用意してきた歌の平凡さと、無邪気な幼児が即興で詠んだ歌の非凡さとの対照。(四六字)

四

問一 a およそ b けだし c のみ d しかり e ほしのままにして

問二 どうしてただその職務を怠るだけであろうか、それだけでなく、さらに報酬以上の金品までかすめ取る。

問三 わがたみをいかんせん

問四 職務を怠り不正な収益を得てはばからない当世の官吏と異なり、朝から晩まで全身全霊で政務に励み、公平な裁判や徴税を行い、民を平安に治める実直な官吏。(七二字)